

平成30年度 第1回太田市公共事業入札等監視委員会 委員コメント

小川委員長

景気動向の先行きが不透明な中ですが、順調な応札状況が見てとれる一方、くじ引きの案件率も増えています。

円安や原油高のなかでコスト増も見込まれますので、適正な最低制限価格の設定等を通じて、予算の適正執行のための競争環境の維持と業者の育成とのバランスに長期的に取り組んでいただきたいと思います。

田島副委員長

平成30年度の平均落札率（単純平均・加重平均）は対前年比0.3ポイント程上昇しましたが、その原因は最低制限価格の引き上げです。

一方、最低制限価格の事前公表により、入札価格は事前公表されている最低制限価格になるものが多く、「くじ」による落札割合が73.7%となりました。「くじ」による落札割合は過去5年間上昇し続けています。

最低制限価格での入札が成立している背景には、最低制限価格の引き上げによる参加業者の工事の採算性の向上が寄与しているものと推察されます。

今後とも限られた財源の中から、公正性・公平性・透明性を損なうことなく、且つ経済性を確保しながら、機会均等の理念を保持しながら、市民福祉の増進を図って頂きたいと思います。

長谷川委員

入札等監査委員会も回を重ねる毎に、資料の見方なども理解した上での参加ができました。

今回、上半期の入札契約状況の報告をいただきましたが、その中で、入札の最低価格が上昇していることや、くじ引きが多い理由として、参加企業の積算精度の向上など要因があるという説明をいただきました。また公正・公平な入札執行に向けての改善も見られました。